

臨床放射線

編集委員

今井 裕
後閑 武彦
栗原 泰之
橋本 順
森 壘
中村 和正

編集協力委員

畠中 正光
小川 恭弘
松永 尚文
森 宣
村田 喜代史
淡河 恵津世
西山 佳宏

編集後記

▶ 本号の特集は「CT・MRI・核医学検査による経過観察—ポイントと進め方—」です。画像診断において経過観察は重要な仕事の一つであり、侵襲的な診断検査を避ける手段でもあります。本特集では8つの領域の画像診断において、経過観察のポイントと進め方をしっかりと学ぶことができます。▶ 渡邊論文では脳腫瘍と脳動脈瘤の経過観察を取り上げており、膠芽腫治療後のpseudo-progression, pseudo-responseについても言及しています。山内論文では頭頸部癌治療後の経過観察におけるモダリティ選択とその時期、局所腫瘍切除後の形態的变化について詳細に解説しています。石村論文では肺結節のCTによる経過観察にはHRCT, thin-section CT, MPRが役立つとしています。肺癌と縦隔腫瘍では治療後の画像所見の変化を知り、治療すべき異常なのかどうかを見極めることが肝要です。土屋論文では大動脈ステントグラフト留置後の一般的な経過観察の他、エンドリーク、脚閉塞、ステントグラフトのmigration, stent graft-induced new entryを概説しています。松原論文では肝の非多血性病変、肝細胞癌の治療後、胆道結石、脾嚢胞を取り上げています。肝細胞癌の放射線治療後では、腫瘍血流が長期に残存するため、画像での効果判定は容易ではなく、pseudo-progressionもあるので注意が必要です。高橋論文では代表的泌尿生殖器疾患において、経過観察が有用な状況を①診断がつかない場合、②治療開始時期を見極める場合、③悪性転化や病態悪化のリスクが高い場合、に分けて紹介しています。後藤論文では乳癌術後において局所の経過観察と遠隔転移の経過観察に分けて解説しています。長町論文では認知症、血行再建術前後、脳炎・脳症、てんかんにおける脳血流SPECTの有用性が示されています。▶ 街の人出が増えてきていますが、いかがお過ごしでしょうか。今年は久しぶりに制限のない花見を楽しんだ方も多かったのではないのでしょうか。COVID-19の流行が落ち着き、行動制限が過去のものになることを祈念いたします。

後閑武彦

「臨床放射線」第68巻第4号

2023年4月10日発行（毎月10日発行）

定価 2,970 円（本体 2,700 円＋税 10%）

年間購読料金

定価 44,990 円（本体 40,900 円＋税 10%）

[年間 13 冊（臨時増刊号を含む）の誌代]

年間予約購読者に限り送料無料

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

TEL 03 (3811) 7165 編集部直通

TEL 03 (3811) 7184 営業部直通

FAX 03 (3813) 0288

ホームページ www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社

本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

JCOPY <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。